２７年度

学力調査結果等を踏まえた内容別・観点別の分析　６年生

練馬区立石神井小学校

教科	１学期前半内容別指導の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別・学力調査観点別のクロスの分析
国語	・相手に説明や報告などをする活動が授業の中でも不十分なため、説明することが苦手な児童が多い。こうした活動を意図的に取り入れ、授業を工夫する必要がある。 ・物語教材で、登場人物の相互関係や心情、場面の様子を読み取ることは概ねできている。 ・説明文では、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述について、読み取ることが苦手な児童が多い。 ・本を読み、推薦の文章を書くために、キャッチコピーを考えたり、文の構成を考えたりすることは意欲的に取り組んでいる。しかし、言葉や図表を引用して自分の考えを書くことには苦手な児童もいる。	・「話す・聞く」では、事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすることはできている。しかし、話し手の意図を捉えたり、話の構成を工夫したりすることは十分ではない。 ・「書く」では、内容や情景の描写を正しく理解し、条件（字数や表現）に合わせてまとめたことを書くことが苦手な児童が多い。 ・「読む」では、物語の登場人物の関係を捉えたり、心情を読み取ったりすることはできているが、要旨を捉えることは苦手な児童が多い。 ・「言語」では、漢字の読み書きは、個人差が大きい。また、習得はしても、文章の中で使うことはまだ十分ではない。	・学力調査の結果では、国語Ａの平均正答率は76.7％、国語Ｂの平均正答率は70.8%でともに東京都や全国の平均を上回っている。 ・最も正答率が低かったのは、「読むこと」の新聞を扱った内容が、わずか27.6％にとどまった。目的に応じて、新聞から適切に言葉を引用することが苦手とする児童が多い。学習の中で「引用」という言葉の意味を理解させ、引用の仕方を指導することが重要であると考える。また、日頃から新聞を手にとって読む児童がわずか29.4％にとどまっている。新聞を活用した授業を取り入れることも必要である。 ・「書くこと」の領域で、文章と図を関係付けて、自分の考えを書く問題の正答率が、わずか46.7％にとどまった。文章と図表やグラフなどの関係やその効果を捉えることができるように指導することが必要である。さらに、説明する力をつけるためには、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要であると考える。
算数	・全体的な傾向として、数や計算、数量関係については概ね理解している児童が多いが、一方で図形を扱った内容については、苦手な児童が多い。 ・対象な図形では、線対称・点対称の知識理解は概ねできているが、対象な図形を書く(特に点対称)ことには苦手意識をもつ児童が多い。 ・角柱の体積や円の体積については、既習内容が習得しきっていないためか、解決に時間がかかり苦手な児童も多い。 ・分数の乗法と除法の計算については概ねできているが、計算の仕方や立式の意味について説明したり、言葉や数、図、式、数直線を使ってノートにまとめたりすることは不十分である。	・「数学的な考え方」では、根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなど様々な表現方法を使って表現したり説明したりする力は不十分である。 ・「数量や図形についての技能」では、整数・小数・分数の基本的な四則計算をすることは、概ねできている。しかし、公式に当てはめて平面図形や立体図形の面積や体積を求めたり、図形についての感覚や見方を深めたりするのは不十分である。 ・「数量や図形についての知識・理解」では、特に比について、具体的な場面を用いながら、比の相等とそれらの意味について理解することは不十分である。	・学力調査の結果では、算数Aの平均正答率は83.9％算数Bの平均正答率は55.4％で、ともに東京都や全国の平均を上回っている。しかし、算数Aの結果から知識は概ね理解している児童が多い一方、算数Bの活用問題に対しては、これまで学んできた多様な考え方を生かして問題を解決することは、苦手な児童が多い。 ・最も低かったのは、「数量関係」の中の割合で、正答率がわずか27.6％にとどまった。示された情報から基準量を求める場面を捉え、比較量と割合から基準量を求めることにまだまだ課題があるといえる。 ・「数と計算」の中の概数では、正答率がわずか29.5％にとどまった。これは、見積もり方や見積もり結果を問われ、さらにその根拠を説明する問題であったが、見積もり方や見積もりの結果については、60％以上の児童が適切に判断していたものの、根拠となる事柄を数や式を使って説明することは不十分であった。普段の学習の中で、説明する場や話し合う活動を設け、児童が実感をもって理解できるようにすることが必要であると考える。